



## 吉野川現地案内ツアー

### 藍の館で藍染めに挑戦

三大河川シンポジウムに連動して、11月3日は吉野川下流の現地案内ツアーを開催。三河川の関係者18人が参加し、まずは「藍住町歴史館 藍の館」で藍染めに挑戦しました。館長の阿部利雄さんの指導で、思い思いの色合い、模様染めに上げいきます。

「甕かめによって色が違うんだね」「浸けるごとに色が変わっていくね」と、皆さん真剣な面持ちで作業に没頭。染料に浸けては空気にさらし、浸けてはさらしを好みの濃さになるまで繰り返し、最後に水洗いして灰汁を落とすと完成です。藍染め作品も多く手がけるデザイナーの板東美千代さんが「今日は藍の状態がすくいい」と太鼓判を押してくれましたが、さあ、出上がりはいかが？ 世界に一枚の藍染めを手に記念撮影です。



染め上がった作品を披露！一枚として同じ色、模様はありません。皆さん、お似合いですよ



新町川を守る会理事長・中村英雄さんの操縦でひょうたん島をクルーズ。四国八十八景にも選ばれたケンチョピアの景観には、見慣れたはずの吉野川チームでさえ、「きれいやな〜」

### 遊覧船で水都の景観を満喫

続いて、新町川を守る会の運航する「ひょうたん島クルーズ」に出発！藩政時代の松や青石の護岸、人柱伝説の残る福島橋などを見学し、ケンチョピアにさしかかると、美しい眺望に利根川・筑後川のメンバーから思わず歓声が上がりました。川から見る町の景色はともにも新鮮で、水都・徳島の魅力を再認識しました。

クルーズの後は船着き場で新町川を守る会女子部(?)手作りの昼食をいただきました。ともに吉野川の文化や自然にふれ、兄弟たちとぐつと仲良くなれた気がします。来年のシンポジウムには、藍染めのシャツでお越しくださいね。

手作りのボウゼのお寿司でお接待



秋晴れの新町川でカンパイ！

## 三大暴れ川の仲間を訪ねました

### 利根川の河口に兄弟が集いました

10月5日・6日には利根川へ。吉野川チーム14人が、利根川河口の千葉県銚子市で開催された「利根川河口の魅力とその活用 in 銚子」に参加しました。5日はシンポジウムが開かれ、



利根川 in 2018.10/5・6

流域の文化・改修の歴史、利根川の水運を生かした銚子の醤油などについて、3つの基調講演が行われました。続いて、パネルディスカッションには吉野川交流推進会議副会長の中村英雄さんがパネラーとして登壇。三河川の歴史、文化、そして治水利水について、兄弟たちと熱い議論を交わしました。親睦会で俄然注目を浴びたのは、吉野川チームのドレスコード“藍染め”です。また、フィナーレは会場全体に阿波おどりの花を咲かせ、吉野川存在感をアピールしました。6日は現地見学ツアーに参加。初めて見る利根川河口の大きさにびっくり！やはり長男は貫禄があります。



阿波藍で染めた衣装で勢揃い

ひと月後にはまた吉野川で、と再開を約束して、利根川を後にしました。

### 筑後川上流の水郷・日田へ

8月25日・26日、筑後川上流の大分県・日田市で開催された「第32回筑後川フェスティバル in ひた」に、吉野川チーム17人が



学芸員の行時志郎さんからレクチャーいただきました

参加しました。「筑後川の水と森と命を守る」をテーマに、水上イベントや物産展、コンセンサス会議をはじめ、多彩な催しが行われており、特にメイン会場の三隈川にはターザンロープやスライダーなどが設置され、さらながら水辺の遊園地！恒例の夜なべ談義も屋形船で行われるなど凝った趣向で、話も弾みました。

翌26日は筑後川チームの案内で現地ツアーへ。日田市複合文化施設AOSEで筑後川源流・流域のパネル展を見学したり、平成29年の九州北部豪雨の被災地・小野地区を訪ねました。土砂や流木に川がせき止められてダム化し、家が水没するなど大きな被害を受けた鈴連町では、いまだに爪痕が深く残っており、自然災害のすさまじさを感じさせられました。

筑後川 in 2018.8/25・26



大規模な山腹崩壊が起こった小野地区を見学